

令和7年度 遅羽地区市長と語る会 議事要旨

- 日 時 令和7年7月7日（月）午後7時00分～午後9時00分
■場 所 遅羽まちづくり会館
■出席者 30名
■意見交換会でのテーマ：高齢化社会におけるコミュニティの施策と小学校の統廃合について

1. 市政報告会

1) 115プロジェクトについて

質問	115プロジェクトは良い取り組みだと思うが、移住者はハードルが高いと思う。それよりもおじいちゃん、おばあちゃんのいる故郷に帰ってこないかと呼びかけた方が良い。勝山の良いところは敷地が広く住みやすく、子育てしやすいところ。対象や情報を絞ってPRしてほしい。
回答	勝山で生まれても大野や永平寺、福井に世帯を持っている人が多い。想定している移住者はそういった人たちを含んでいる。一番のターゲットは勝山で生まれた人だと思っている。地域の皆さんには、ぜひお声掛けにご協力いただきたい。まずは勝山の魅力をしっかりPRしたい。

2. 意見交換会

1) 高齢化社会におけるコミュニティ施策について

質問	高齢化社会となり、高齢者だけの集落になった場合、地区でも対策が必要だと思うが、コミュニティの維持に関して市としてどのような展望を持っているか。
回答1	人口減少が進み担い手が不足してくる中、集落の規模に関わらずコミュニティの維持は避けられない問題。それには市全体として高齢者が暮らしやすいまちづくりは大事だと思っている。高齢者がいつまでも住み続けることができる地域にすることが必要で、それには地区社協やまちづくり会館の働きは大きい。その取り組みをしっかりと評価していきたい。また、近隣の集落同士の協力体制は必要不可欠で、小規模の集落同士で様々な活動に関して一本化することも検討していく必要がある。地域との話し合いの中で、行政協力員の一本化をはじめとする複数集落を一本化する取り組みは、今後やってく必要があると思っている。
回答2	市としては、まちづくり会館を地域福祉や地域防災の拠点として位置づけているが、まずは、まちづくり会館を地域の皆様の拠り所として機能するように体制を整えたいと思っている。そのために施設の整備をはじめ、地域活動への交付金、郷土芸能の補助金、新たな担い手の参画促進事業補助金、自主防災組織や除雪活動への助成など様々な支援を行っているが、まだまだ足りないと思っている。今後も皆さんのご意見を聞きながら、まちづくり会館を地域福祉の拠点として進めていきたい。行政協力員については、まずは区長の負担を軽減し、区の合併ではなく行政協力員としての統合に向けてご意見をいただきながら考えていきたい。

質問	集落機能の維持について将来的に不安を感じている。高齢化社会の進展、人口減少の中で担い手がなくなっている。同時に集落自治、住民自治の住民自身の意識の低下が顕著に出てきている。自分の地域は自分たちで守っていくという意識が薄れていっていると感じる。担い手不足もあるが、それと同時にこの意識の変化があると思う。自分の地区は40・50代の若い人の協力を得て行事などを維持できている。コロナを契機にいろいろな行事の簡素化や縮小化、中止などの検討をして何とか体裁を保ってきた状況だと思う。今後10年は維持できるが、その次の世代の担い手が出てくれるか不安。集落維持機能や住民自治の継続について市長の展望を聞きたい。
回答	おそらくどの集落でも今の地域活動を支えているのは70代の方が中心。今後この世代自体も減っていくので同じようには続いていかないと思う。そういった中でもコミュニティの維持には、地域の方がそこで暮らし続けていくことが一番大事で、それに対する支援が必要だと思う。例えば地区の伝統行事を支援することにより、地域のアイデンティティを守っていききたい。 遅羽地区はにこにこ地域づくり事業交付金を計画的に活用されており、年次計画をうまく立てられていない地区も多い中、遅羽地区は市内でもトップモデルだと言える。市としては先行して進んでいるところは、10年の計画を前倒しして次の計画へ移行することも考えている。その中で遅羽地区のコミュニティ活動をどう支えていくか次のステップでは考えていきたい。魅力のある地域づくりを市としても模索しながら、地域コミュニティの維持に少しでもバックアップしたい。地区の事業の簡素化などもして、若い人や女性が参加しやすい状況は作ってほしい。ご意見を聞いてしっかりとやっていきたい。
質問	にこにこ地域づくり事業交付金の計画を立てる中で、実は現在260万円あまりのマイナス計画となっている。進んで計画を実行している地区は、10年を待たずに追加の支援をいただけると聞き非常にうれしい。どう圧縮しようかと悩んでいた。仮に10年を待たずに資金が枯渇してしまった場合に、今後の支援のあり方の見解を聞きたい。
回答	にこにこ地域づくり事業交付金を始めたときも、10年を待たずして次の段階に、とは思っていた。遅羽はうまく進んでいるが、そうでない地区もある。できていないところに合わせるのではなく、先行しているところに合わせて次の後継事業を始めるよう、地域から声を挙げてほしい。やる気のあるところに支援をするような後継事業をやっていききたい。そういった意見を区長会やこういった場で出していただきたい。

2) 小学校の統廃合について

事前質問	三室小学校が複式学級となり、子どもの保護者からも今後について心配の声が挙がっている。小学校の統廃合の計画について市長の考えをお聞きたい。
回答	中学校は紆余曲折あったが現在は新しい校舎の建設にかかり、令和9年4月から市内の中学校は一つになる。中学校を統合するにあたって、平成16年頃から議論が繰り返されてきた。平成19年には小中学校の望ましいあり方について検討された報告書が出され、それに基づきまずは中学校の再編について再度協議され、1校に統合する方針を出した。報告書の中では小学校に関しては、地域の関わりが強いので、基本的に地域からの申し出を待って協議会を立ち上げるという方針を公表した。その方針が出される以前は全校児童が30人を切るようであれば、市から統合の協議に入るという方針であった。 現在野向小学校には児童が15名しかおらず、野向町では小学校のPTAや区長会とで協議に入っている。協議の中で市の考えでは、野向地区では小学校入学に際し、野向小学校の他、隣接する地区である荒土小学校や村岡小学校を選択できるような制度を入れてはどうかと提案し協議してもらっている。まだ答えは出ていないが、地元が望むなら制度を入れたい。 小学校については地域からの声を待っている。野向は地域から声があり協議に入った。今回いただいた意見が住民協議会や区長会からの意見であれば、今後すぐに協議会を立ち上げて協議していく。
質問	20年前に出された方針なので少し納得できない部分もある。三室小学校に通う孫は3人のクラス。こういった状況なら、今から子育てを考えている人は永平寺や大野、勝山のまちなかを選び、どんどんコミュニティが崩壊していくのではないかと。親にとって子どもの教育が一番で、その教育ができないのであれば選ばれない。遅羽は良いところだと思う。買い物へ行くのも便利だし住みやすい。若い人に魅力があると思ってもらいたい。万が一、協議会をするなら私も参加して、市に提言していきたい。
回答	おっしゃるとおりコミュニティ崩壊の問題とつながっている。あまりに小学校の人数が減ってくると、ずっとここに暮らしている人は耐えられるが、帰ってくる人には抵抗感が出てくる。私個人の考えでは、小学校も早く統合すべきだと思っている。野向でやろうとしていることを三室でもやるのはあり。保護者やその親世代が踏み切れるのかが大きい。中学校統合の際、地域の反対を押して進めた時に、行政としての業務に影響が及ぶくらい職員の負荷が大きかった。こういった意味では地域の協力のもと統合の話を進めていきたい。
質問	孫が三室小学校に通っているが、子ども中心に考えたら、30人の小学校で過ごすことが本当に子どものためなのかと思う。地域に小学校があってもなくてもコミュニティの維持は考えていかないといけない。子どもにとって望ましい教育環境は何か。中学校統合反対の署名を求められたときはあまり関心がなく、反対意見に共感できなかった。統廃合は財政的には必要だというのは理解できた。ただ、小学校の統合に関しては、子どもファーストの考え方を提示してほしい。
回答	学校を統合しないと財政的に持たないからではという意見もある。実際には学校が減ることにより財政負担が増える。市は財政のことから統廃合を言っているのではない。子どもが何人の学校が望ましいのかは人それぞれだと思う。ただひと学年76人がマンモス校だとは言えない。クラス替えができないのは子どもにとっても苦しい。基準を示すことはできない。

質問	私は関東から勝山に帰ってきて、3人の子どもを育てている。帰ってきて、こんなに子どもの数が少なくなっているとは思わなかったのでびっくりした。ただ、それがかわいそうだと思ったことはなかった。その分地域の皆さんが見守って声をかけてくれた。先生方もすごくよく見てくださった。人数が少ない学校が必ずしも悪い、かわいそうだとは思わない。統合してみんなで活動するのは良いと思うが、小さい学校が必ずしもかわいそうだと決めつけるのはやめてほしい。みんなで話し合って決めたい。 こども課が教育会館になってから相談に行きづらくなった。廊下の電灯がとても暗いし雰囲気が悪い。最近、ママたちで大野の新しい屋内遊技場で集まった。そういったものが勝山にできたら良い。入りやすいような施設があつてこども課もそういったところにあつてほしい。これから炎天下で子どもを遊ばせる場所がない。そういった設備は早くできてほしい。
回答	少人数学校が良いと言う人もいるのは事実。そのため野向は選択制を検討している。たくさんの方の友達を提供したい保護者もいるし、人数が少なくても自然豊かな場所を望んでいる保護者もいる。それを他の保護者に押し付けるのは難しい。すぐに統合は難しいとは思っている。 施設が暗いということはこども課長に伝える。会館の改修にあわせて、事務所も室内の遊び場も良いものを作っていきたいので、もうしばらくお待ちいただきたい。
質問	三室小学校は子どもは少ないが、先生がしっかりと教えてくれる環境がある。子どもが少ないから助かっているところもある。ただ、子どもが少ないと教員も少なく、三室小学校はスポーツの運動能力が低下している。できればスポーツに関して能力がある先生を配置してほしい。
回答	学校が小さくなると教員の数も減り、そこをカバーするために市がスポーツ教員を9校に配置するのは難しい。ただ、小学校を選択できるようにするのはあり。三室では別の意見になる可能性がある。地域でしっかりと話をしてほしい。市では強制しない。
質問	小学校もある程度の人数にきたら統合すべきだと思う。自分の通っていた小学校が統合した経験があるが、人数が倍になったからといって悪いことはなかった。統合は早急にすべきだと思う。地域の声を待たずして市が進めるべき。 新中学校は建設地が悪い。なぜ高校に隣接させたのか今でも理解できないが、統合に関しては通学の足さえ確保してもらえれば、距離が遠くても通うことはできるので、通学の手段はしっかりと考えてほしい。 勝山を出た人が勝山に戻れるような対策をしてほしい。勝山には職場がない話も出たが、永平寺で働いて勝山に住むというのもありだと思う。必ずしも市内で働かなくても良いので、そういった近隣市町の企業と連携ができると良い。住むのには良いが働き場がないので、勝山に住むとメリットがあるというのがあると良いと思った。
回答	115プロジェクトの中で地元に戻ってきた子供たちへの支援ができると良いと思った。また、生活域の広域化は進んでいる。企業誘致は課題だが、ここまで人口減少が進むと多種多様な職場は難しい。働く環境で全ての人を満足させるのは難しいが、暮らす人の満足度は上げていきたい。統廃合は多彩な意見があることが事実なので、統廃合は市が率先してという思いは分かるが、地域からの反対が想定される中市から提案するのは難しい。ただ要望があれば市は積極的に入りたいと思うので、まずは地域の中で協議してほしい。

質問	少人数の学校で子どもを手厚く見てもらって感謝しているという保護者の方の気持ちも分かるが、やはり子どもたちが元気に楽しく学校に行けているのかというのが一番。いろんな子どもがいるし、保護者の考えも様々なので小学校の統廃合はいろいろな意見を煮詰めないで難しいという印象を持った。 こども課が暗いという意見があったが、以前はすこやかにあり広々していた。逆にすこやかには寂しくなった。昔の賑わいを戻してほしい。健康体育課もあるし福祉の部門はすこやか合うのではないかなと思う。
回答	学校の規模関係なく、市は子どもたちのために精一杯支援している。小さい学校だからと言って手を抜いたり我慢をしてもらったりはしていない。だから団体スポーツはできないが学校に満足している子どもや保護者は多いと思うので、そういったことも踏まえて皆さんで議論してもらいたい。 すこやかにあった子育て支援係を教育会館に持ってきたのは、子どもに関する事業の一本化のため。行政目線ではなく子ども目線で、こども課を教育委員会に持ってきた。 教育会館は施設が老朽化しているので、改修して新しくなったら皆さんが喜ぶものにした。すこやかには寂しいという意見は理解したが、部署を戻す予定はない。

3) その他

質問	先ほどの回答で、まちづくり会館の防災を強化するという話があったが、現状、この遅羽まちづくり会館にベッドや輪島の地震で問題になった簡易トイレや防災設備はどれくらい配置しているか。
回答	今具体的な数字はお答えできないが、確かに今遅羽まちづくり会館にたくさんの方が避難してきた時に、全てまかなえる設備はない。今年度、国の補助金を活用して順次配置する予定である。福井地震相当の地震を想定して、市内で1,500人が避難しなければいけないことを想定して準備していきたい。
質問	今の現状をお聞きしたかった。世間一般でいう三日分が準備されているのかということが聞きたい。九頭竜川が決壊すると遅羽は孤立する。市役所に備蓄があっても遅羽にはない。そういった状況も考えていただきたい。
回答	今は地震を想定した備蓄の準備をしている。トイレカーを二台整備し、メインの避難所となる小学校の体育館にはエアコンの整備の予定している。現在ジオアリーナに備蓄を集めているが、九頭竜川で分断したときの想定をしっかりとやっていきたい。明確にお答えできなかったのが申し訳ないが、しっかりとやっていく。
質問	にこにこ交付金が出始めた時に、小規模多機能自治ということが叫ばれて、遅羽からも何人か先進地の視察にも行った。遅羽としては継続的な資金投入を考えた部分での活動をしており、そういった中で、資金を流用していただけるのはありがたい。継続事業以外で新規事業にも資金がいただけるのか、活動状況に応じた資金配分になるのかお聞きしたい。

回答	今の時点でまだスキームが決まっているわけではない。小規模多機能自治も含めて、にこにこも地区間のばらつきがある。遅羽は早くから住民協議会の組織を立ち上げ、区長以外の方が住民自治に携わってきた歴史的な背景があり、住民自治が進んでいる。また、指定管理を入れている北谷や野向はコミュニティセンターを中心に活発な活動を繰り広げており、この2地区は特に住民自治に関して進んでいる。北郷は旧木下家住宅を活用したイベントなどに若い人が積極的に参加しているし、平泉寺は観光を中心に頑張っている。地域それぞれに特色があり、やり方がある。にこにこに関しては地域が持続できるような形、地域をバックアップする資金は考えていきたい。住民協議会や区長会の皆さんと相談しながらスキームを作ってやっていきたい。
質問	昨年の市長と語る会の際に、まちづくり会館の玄関がつかまらなと靴が脱げないので、バリアフリーに関して対応いただけると口約束をしていただいたと思っていた。同じく昨年の意見で出た縄文資料館のエアコン整備に関してはすぐに対応してもらいありがたかった。玄関のバリアフリーに関しても対応してほしい。工事で設置しなくても移動式の介護手すりがあり、2台ほど設置いただけるとありがたい。
回答	早急に対応したい。
質問	ひとつお礼を言いたい。にこにこ交付金を活用して遅羽の野菜市をしていたが、事情で場所がなくなり困っていたが、テキ6の場所を提供していただき非常に助かった。勝山の玄関口ということで市のアピールにも貢献できていると思う。駅前にいると外国人観光客の多さに驚くが、市の取組みによるものか。
回答	インバウンドに関しては、積極的な市の取組ではない。全国的にインバウンドは今後も増えるし、オーバーツーリズムになっている京都等から流れてくる可能性もある。市内では越前大仏が特に伸び率が高いし、えちぜん鉄道は全国の私鉄の中でもインバウンドの伸びが一番である。今後しっかりと対応していきたい。